

造影検査を受けられる方へ（検査説明書）

今回、あなたの画像検査におきまして、造影剤の使用が必要となる可能性があります。そこで造影剤の必要性と危険性を説明致しますので、ご理解の上、同意書にご署名下さい。ただし造影剤を使用せずに十分な診断が出来た場合、あるいは造影剤の副作用が強く出ることが予想される方には、造影剤は使用しません。

1. 造影剤とは？

詳しい画像情報を得るための検査製剤です。血管内に注射し使用します。CT検査用の造影剤は、ヨード製剤です。MRI検査で使用する造影剤は、ガドリニウム製剤です。

2. 造影検査の手順及び目的

静脈に造影剤を注射して検査を行います。造影剤を使用することにより、画像上に臓器や血管を明瞭に描出させ、その形や機能を詳細に調べることができます。これは病変の診断に大いに役立ちます。造影検査の種類としては、CT、MRI、排泄性尿路造影、下肢静脈造影などがあります。その他、心臓カテーテル検査などのように、動脈に造影剤を注射し、動脈造影を行うものもあります。

3. 造影剤の副作用

ヨード造影剤（CTなど）では、次のようなものがあります。症状が出る時期は、注射した後すぐに起きる場合（即時性）と検査終了1時間後から数日後に起きる場合（遅発性）があります。

1) 軽い副作用（約100人に1人程度：1%程度）

吐き気、嘔吐、熱感、動悸、頭痛、めまい、かゆみ、発疹など。基本的には治療を要しません。

2) 重い副作用（約1万人に5人程度：0.05%程度）

呼吸困難、血圧低下、意識障害など。通常は治療が必要で、後遺症が残る可能性があります。

3) 非常に稀ですが、病状・体質によっては死亡例の報告もあります。

（約10~20万人に1人の割合：0.0005~0.001%）

造影剤の副作用が出た場合は、放射線科部で各医師と協力して治療します。重篤なものは、救命救急チームが治療にあたります。

MRI検査で使用するガドリニウム造影剤による副作用の発生頻度は、ヨード造影剤の10分の1くらいの割合です。また、ガドリニウム造影剤では遅発性の副作用の報告はありません。腎不全のある患者さんへのMRI造影剤使用に関して、腎性全身性線維症の発生が報告されています。腎性全身性線維症は、皮膚の硬化、痛みなどが発生し、四肢関節の拘縮を生じて活動が著しく制限されます。確立された治療方法はなく、その死亡率は20~30%とされています。

4. 造影剤で副作用が生じる危険性が高い状態

重大な副作用を起こす特異体質の患者さんを前もって知る方法は今のところありません。ただし、ヨード造影剤（CTなど）の場合、アレルギー体質や気管支喘息の方は副作用を生じる可能性が2倍高いと言われています。また、以前に造影剤で具合が悪くなった方も副作用が生じる可能性が高いと言われています。重い腎臓病のある方では、造影剤の排出が遅れ体内に長く残る可能性があり、腎機能の悪化を起こすことがあります。

次に該当する方は、造影検査の前に主治医にご相談下さい。

- 1) 以前にCT用またはMRI用の造影剤で具合が悪くなったことがある。
- 2) 気管支喘息（小児喘息）やアレルギー体質と診断されている。または診断されたことがある。
- 3) 腎臓が悪いと言われたことがある。

また、現在妊娠中、若しくは妊娠の可能性のある方は、胎児への影響が考えられます。授乳中の方は、造影剤が母乳に移行しますので、いずれの場合も主治医と相談して下さい。

（造影剤を使用した場合は、検査後48時間は授乳を避けてください）

5. 造影剤使用時の合併症

- 1) ヨード造影剤（CTなど）では体が熱くなることがありますが、血管に対する直接の刺激による正常な反応であり、心配ありません。
- 2) 造影剤を血管内に勢いよく注入する場合は、血管外に造影剤が漏れることがあります。この場合は、注射部位が腫れて、痛みを伴うこともあります。基本的には時間がたてば吸収されますので心配ありません。漏れた量が非常に多い場合には、別の処置を要することもあります。非常に稀です。

6. 検査前の絶食について

CT造影検査を行う場合は、検査前3時間以内の食事は控え下さい。水分においては、水やお茶などの水分はお飲みいただいて結構です。ただし、牛乳などの乳製品飲料はおやめ下さい。MRI造影検査では、検査前に食事をされても問題ありません。ただし、撮影部位によっては絶食が必要ですので、その場合は事前にご説明します。

7. 一度承諾した後、造影剤検査を受けたくなくなった場合

あなたは、一度承諾した後も、検査前に造影剤の使用に関する承諾を取り消すことが出来ます。その場合、検査の診断内容が低下する可能性はありますが、造影剤を用いない検査を受けることが可能です。

また、承諾したのにもかかわらず、検査当日になって体調の変化などで造影剤検査を受けたくない場合には、放射線科検査室のスタッフにご相談下さい。

なお、わからないことがありましたら、担当医または放射線科医に遠慮なくご質問下さい。

**検査をできるだけ安全確実に行なうために、別紙「造影検査に関する問診票」にお答え下さい。

九州労災病院 放射線科

Te l 093 (471) 1121 内線4400